

NEC iStorageシリーズ iStorage NS250

2

セットアップ

本装置のセットアップの方法について説明します。

設 置 (→22ページ)

本体の設置手順について説明します。

接続について (→39ページ)

本体にケーブルを接続する際の注意事項を記載します。

システムのセットアップ (→41ページ)

本製品を使用するための初期設定の方法や、オプションソフトウェアについて説明します。

設置

本装置は卓上またはEIA規格に適合したラックに設置して使用します。

卓上への設置

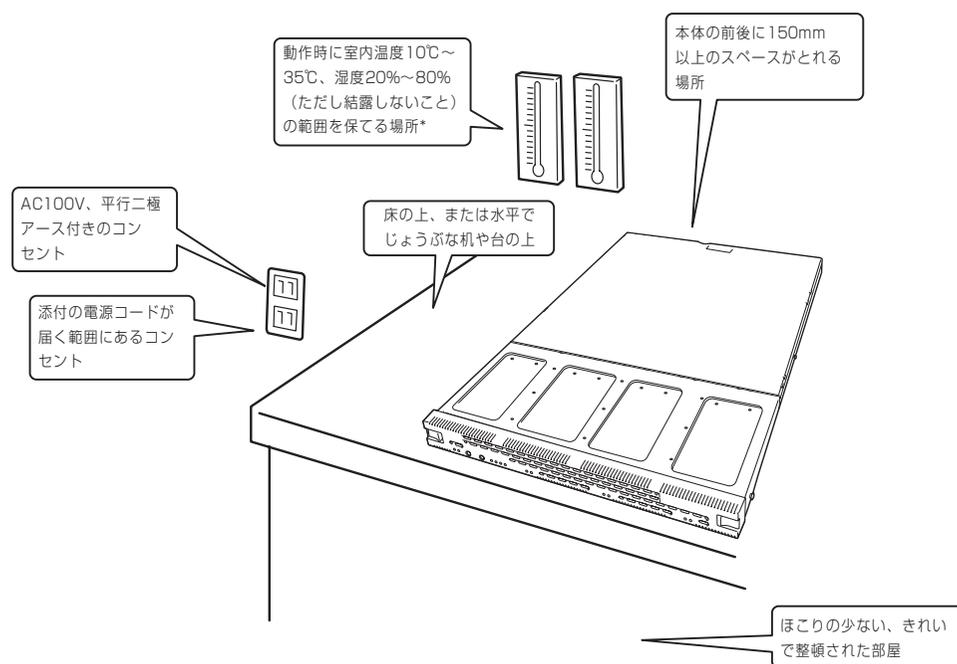
⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所に設置しない

設置にふさわしい場所は次のとおりです。



* 室内温度 15℃～25℃の範囲を保てる場所での使用をお勧めします。

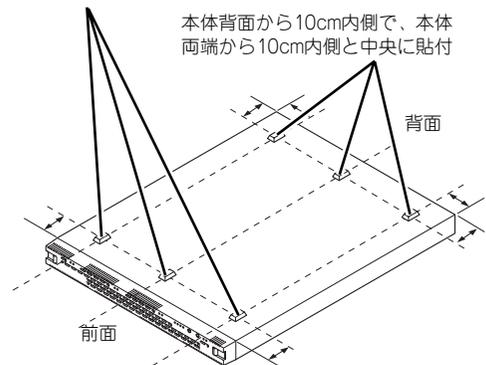
次に示す条件に当てはまるような場所には、設置しないでください。これらの場所に本体を設置すると、誤動作の原因となります。

- 温度変化の激しい場所（暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く）。
- 強い振動の発生する場所。
- 腐食性ガスの発生する場所（大気中に硫黄の蒸気が発生する環境下など）、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 電源コードまたはインターフェースケーブルを足で踏んだり、引っ掛けたりするおそれのある場所。
- 強い磁界を発生させるもの（テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど）の近く（やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください）。
- 本体の電源コードを他の接地線（特に大電力を消費する装置など）と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ（商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど）を発生する装置の近くには設置しないでください。（電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください。）

卓上に置く場合は、本体底面に添付のゴム足を貼り付けてください。

設置場所が決まったら、本体の底面をしっかりと持って、設置場所にゆっくりと静かに置いてください。本体は2台まで積み重ねて置くことができます。

本体のフロントベゼルの付け根から10cm内側で、
本体両端から10cm内側と中央に貼付



ラックへの設置

ラックの設置については、ラックに添付の説明書を参照するか、保守サービス会社にお問い合わせください。

ラックの設置作業は保守サービス会社に依頼することもできます。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外の場所で使用しない

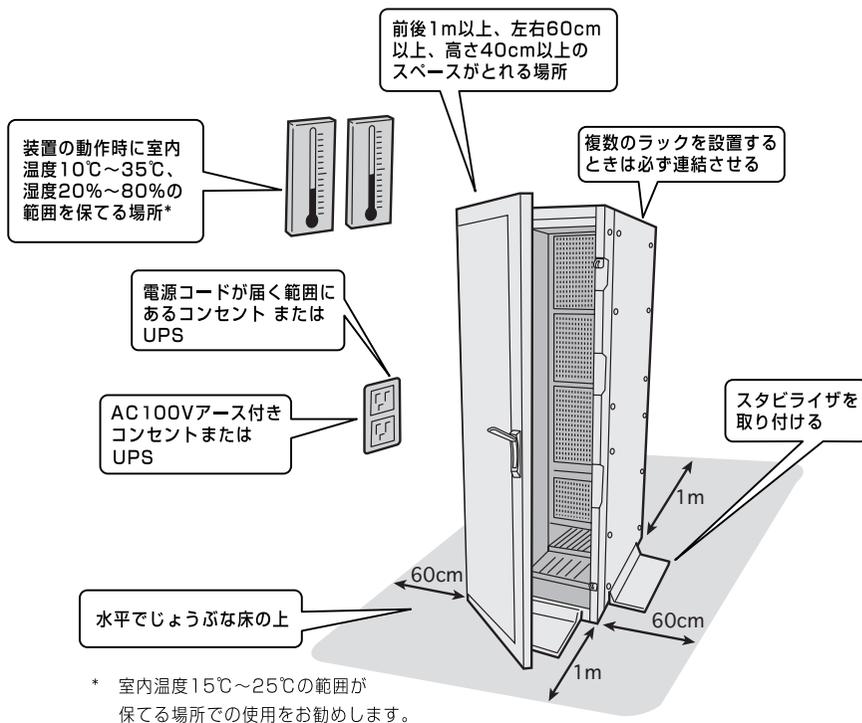
注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- 1人で搬送・設置をしない
- 1人で部品の取り付けをしない
- 荷重が集中してしまうような設置はしない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 定格電源を超える配線をしない

本装置の設置にふさわしい場所は次の通りです。



ラック内部の温度上昇とエアフローについて

複数台の装置を搭載したり、ラックの内部の通気が不十分だったりすると、ラック内部の温度が各装置から発する熱によって上昇し、動作保証温度（10℃~35℃）を超え、誤動作をしてしまうおそれがあります。運用中にラック内部の温度が保証範囲を超えないようラック内部、および室内のエアフローについて十分な検討と対策をしてください。

次に示す条件に当てはまるような場所には、ラックを設置しないでください。これらの場所にラックを設置したり、ラックに本体を搭載したりすると、誤動作の原因となります。

- 本体をラックから完全に引き出せないような狭い場所。
- ラックや搭載する装置の総重量に耐えられない場所。
- スタビライザが設置できない場所や耐震工事を施さないと設置できない場所。
- 床におうとつや傾斜がある場所。
- 温度変化の激しい場所（暖房器、エアコン、冷蔵庫などの近く）。
- 強い振動の発生する場所。

- 腐食性ガスの発生する場所（大気中に硫黄の蒸気が発生する環境下など）、薬品類の近くや薬品類がかかるおそれのある場所。
- 帯電防止加工が施されていないじゅうたんを敷いた場所。
- 物の落下が考えられる場所。
- 強い磁界を発生させるもの（テレビ、ラジオ、放送/通信用アンテナ、送電線、電磁クレーンなど）の近く（やむを得ない場合は、保守サービス会社に連絡してシールド工事などを行ってください）。
- 本体の電源コードを他の接地線（特に大電力を消費する装置など）と共用しているコンセントに接続しなければならない場所。
- 電源ノイズ（商用電源をリレーなどでON/OFFする場合の接点スパークなど）を発生する装置の近く（電源ノイズを発生する装置の近くに設置するときは電源配線の分離やノイズフィルタの取り付けなどを保守サービス会社に連絡して行ってください）。

本体をラックに取り付ける手順を以下に示します。取り外し手順については、取り付け手順の後で説明しています。

 **警告**



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 規定外のラックで使用しない
- 指定以外の場所で使用しない

 **注意**





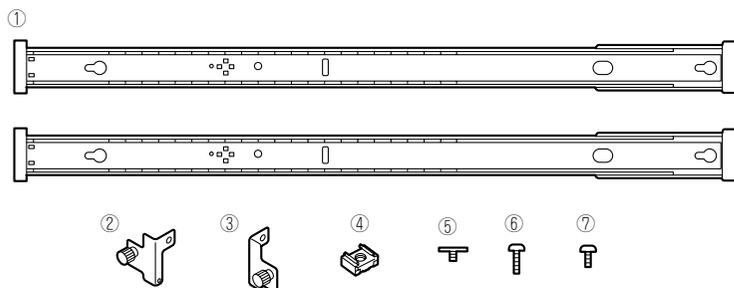

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 落下注意
- 装置を引き出した状態にしない
- カバーを外したまま取り付けない
- 指を挟まない

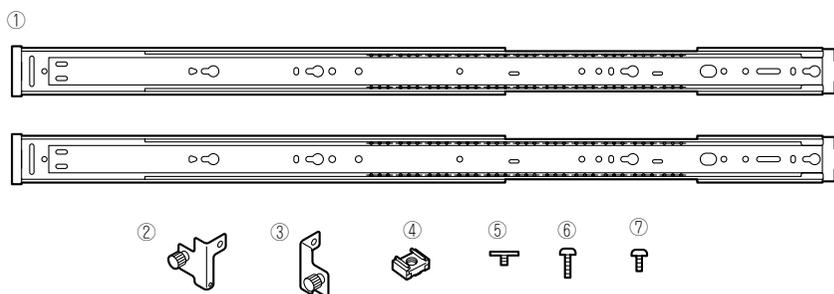
取り付け部品の確認

ラックへ取り付けるために次の部品があることを確認してください。

(1) リリースレバーがインナーレールの後側にある場合



(2) リリースレバーがインナーレールの前側にある場合



ご購入いただいた時期によって、ラックレールの形状が異なる場合があります。この場合、一部の取り付け/取り外し方法が異なります。お手持ちのラックレールをご確認いただき、それぞれのラックレールに対応した方法で、取り付け、取り外しを行ってください。

| 項番 | 名称 | 数量 | 備考 |
|----|---------------|----|--|
| ① | ラックレール | 2 | ラック取り付け用レールと本体装置取り付け用レール（インナーレール）がセットになっている。 |
| ② | マウンティングイヤー（左） | 1 | 装置をラックへ固定するための金具（左側面用）。 |
| ③ | マウンティングイヤー（右） | 1 | 装置をラックへ固定するための金具（右側面用）。 |
| ④ | コアナット | 9 | 本体装置の取り付け位置に合わせてラックに取り付ける（左右各4個ずつ使用）。1個は予備用。 |
| ⑤ | ネジA | 5 | M4平ネジ。インナーレールと本体装置を固定する際に使用する（左右各2本ずつ使用）。1個は予備用。 |
| ⑥ | ネジB | 9 | M6ネジ。ラックレールをラックに固定する際に使用する（左右各4本ずつ使用）。1個は予備用。 |
| ⑦ | ネジC | 4 | マウンティングイヤーを本体装置に固定する際に使用する（左右各2本ずつ使用）。 |

必要な工具

ラックへ取り付けるために必要な工具はプラスドライバーとマイナスドライバーです。

取り付け手順

次の手順で本体をラックへ取り付けます。

- ラックレールと本体装置の取り付け

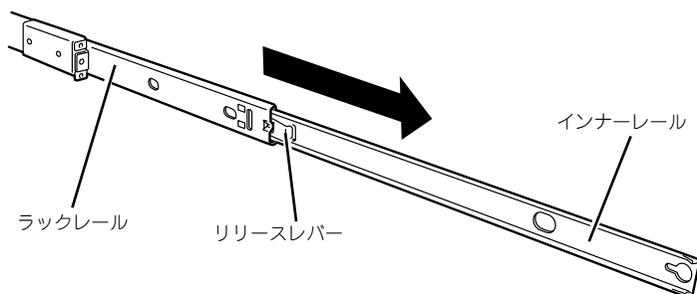
1. ラックレールからインナーレールを取り出す。

ラックレールに装着されているインナーレールのリリースレバーを押してロックを外し、インナーレールを引き出します。なお、2本のラックレールは右、左共用です。

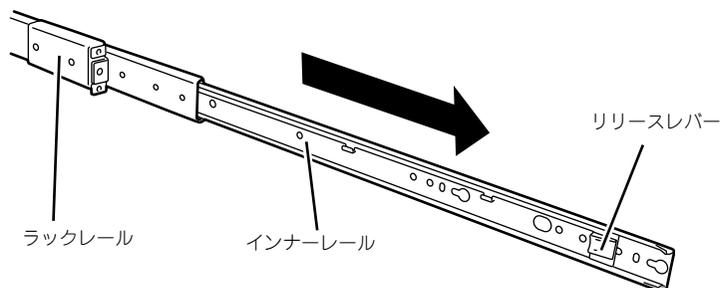


ご購入いただいた時期によって、ラックレールの形状の違いによりインナーレールの取り外し方法が異なります。お手持ちのラックレールの形状に対応した方法で、インナーレールを取り外してください。

- (1) リリースレバーがインナーレールの後側にある場合



- (2) リリースレバーがインナーレールの前側にある場合



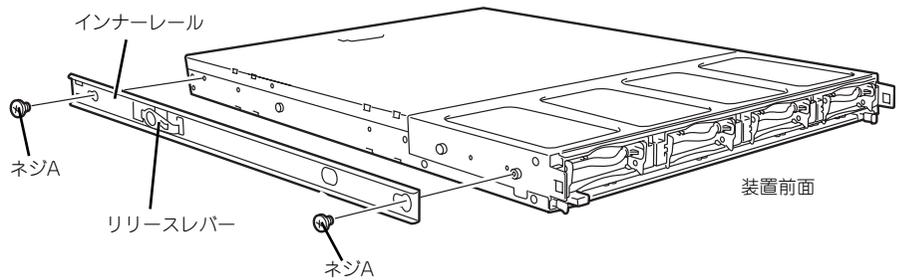
2. インナーレールのネジ穴と本体左側面のネジ穴を合わせる。

3. インナーレールをネジA（2本）で本体に固定する。

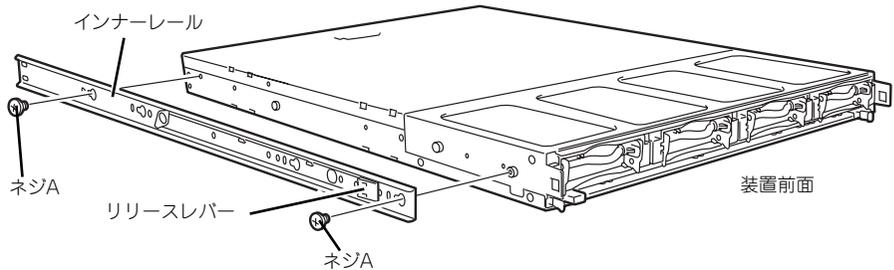


インナーレールの一番前側と後側のネジ穴で固定します。

(1) リリースレバーがインナーレールの後側にある場合

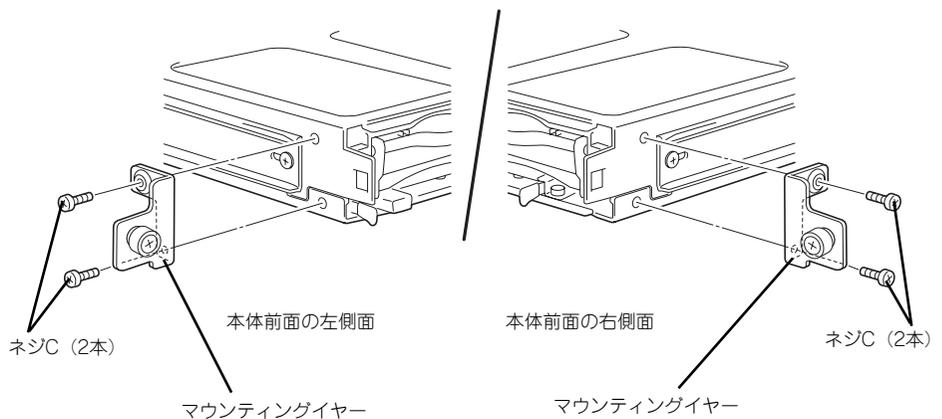


(2) リリースレバーがインナーレールの前側にある場合



4. 本体右側面にインナーレールを手順2～3と同じ手順で取り付けます。

5. マウンティングイヤーをネジC（各2本）で本体に固定する。

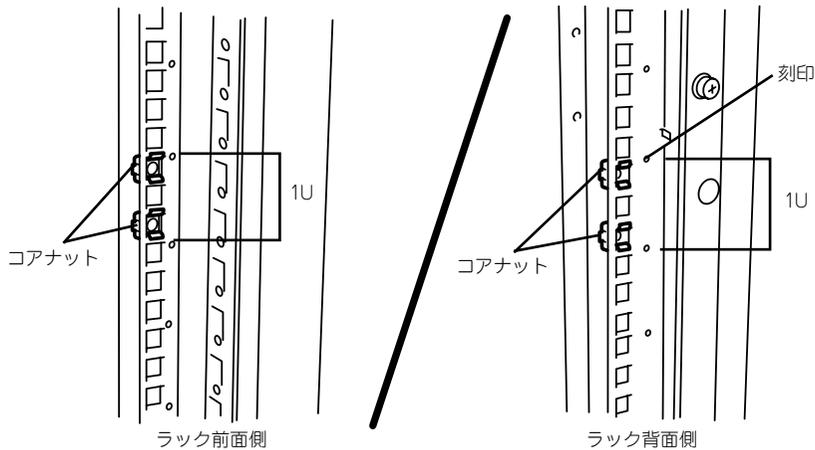


- コアナットの取り付け

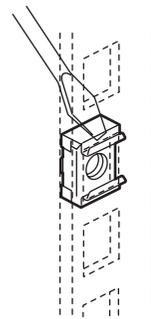
ラックレールを固定する位置に添付のコアナットを取り付けます。コアナットはラックの前面（左右とも）に各2個、背面（左右とも）に各2個の合計8個取り付けます。

コアナットは「1U（ラックでの高さを表す単位）」の中に取り付けてください（NEC製のラックでは、1U単位に丸い刻印があります）。1U当たり、スロット（角穴）が3つあります。

3つのスロットのうち、上下2つのスロットにコアナットを取り付けます。



コアナットは下側のクリップをラックの四角穴に引っかけてからマイナスドライバなどで上側のクリップを穴に差し込みます。



チェック

ラックの前後、左右に取り付けたコアナットの高さが同じであることを確認してください。



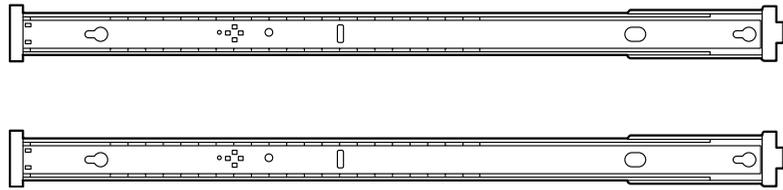
重要

ラックにあらかじめ添付されているコアナットはネジの径が異なるため使用できません。必ず装置に添付のものを使用してください。

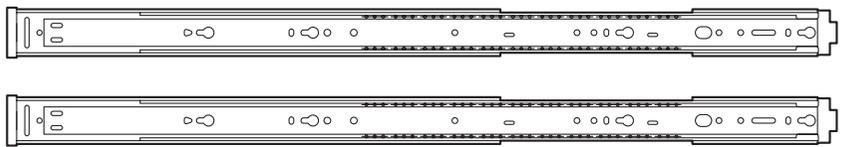
● ラックレールの取り付け

2本のラックレールは右、左共用です。

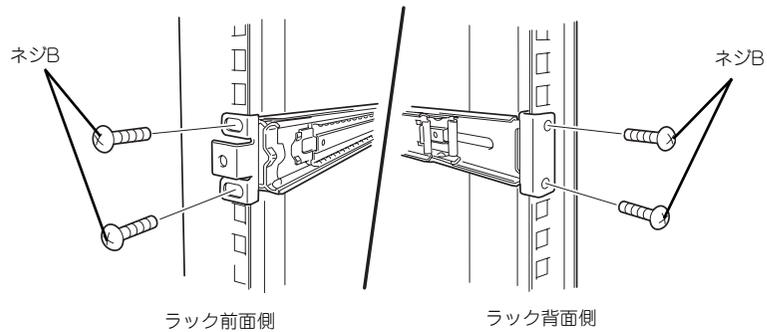
(1) リリースレバーがインナーレールの後側にある場合



(2) リリースレバーがインナーレールの前側にある場合



1. ラックの奥行きに合わせてアウターレールを引き延ばす。
2. コアナットを取り付けた位置にラックの左側からラックレールの前後のフレームを合わせ、ラックレールを支えながらネジB（前面、背面それぞれ2本）でラックに固定する。

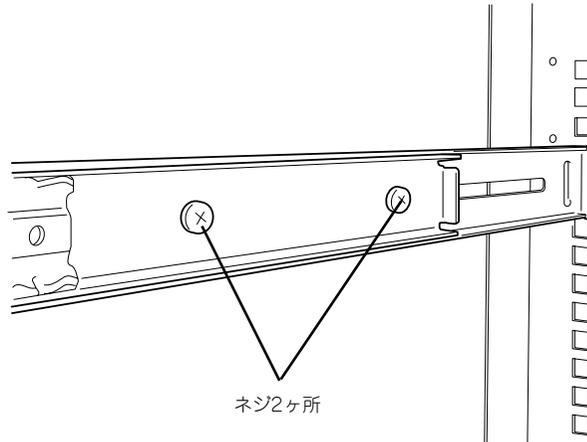


ラックレールが水平に取り付けられていることを確認してください。

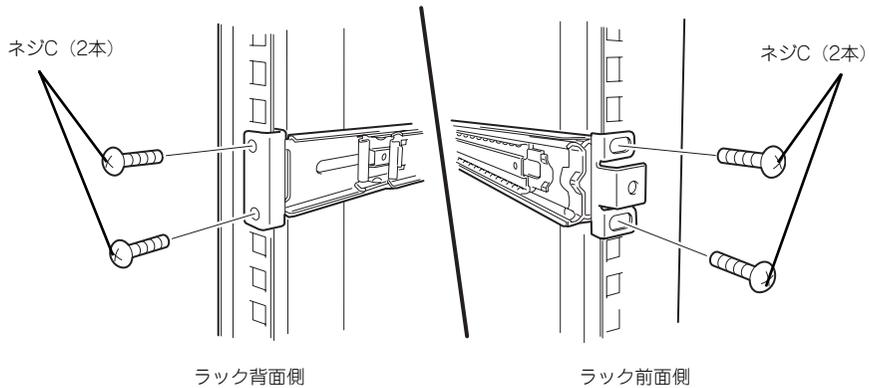


ラックレールのネジ穴は多少上下にずらすことができる程度のクリアランスを持っています。初めて取り付ける場合は、コアナットのネジ穴がラックレールのネジ穴の中央に位置するようにしてから固定してください。もし、本体を取り付けたときに本体の上下に搭載している装置にぶつかる場合は、いったん本体を取り出してラックレールの固定位置を調整してください（ぶつかる装置の取り付け位置も調整する必要がある場合もあります）。

3. ラックレールのアウターレールを手前に少し引き出し、ラックレール後方のネジ2カ所のネジを締めて、完全にラックレールの長さを固定する。



4. 右側のラックレールを手順1～手順3と同じ手順で取り付ける。



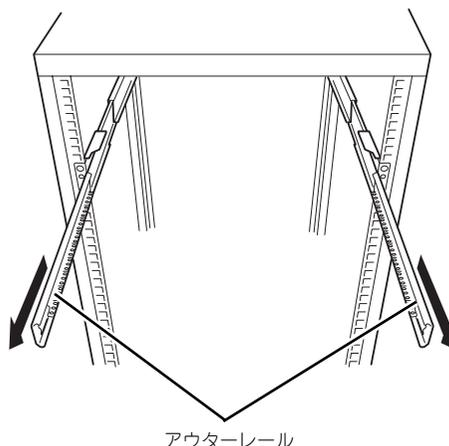
チェック

既に取り付けられている左側のラックレールと同じ高さに取り付けられていることを確認してください。

● 本体の取り付け

取り付けは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。

1. 左右のラックレール内のアウターレールを手前に引き出す。
2. 本体の前面が手前になるようにして持つ。



アウターレール

3. 本体側面にあるインナーレールを左右のアウターレールに差し込みながらラックへ押し込む。

途中で本装置がロックされたら、側面にあるリリースレバー（左右にあります）を押しながらゆっくりと押し込みます。

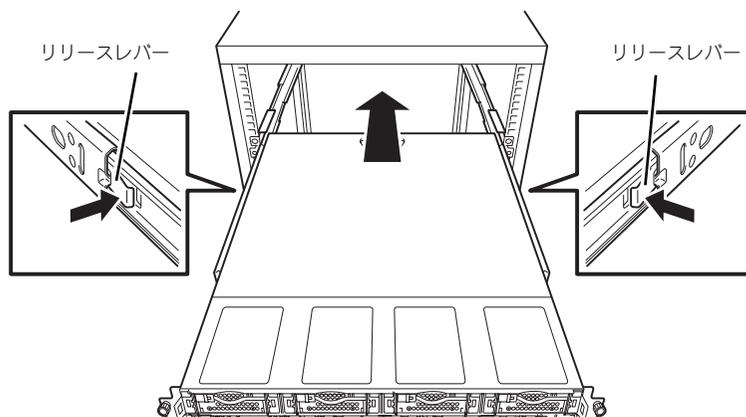


重要 本体の上下に搭載している装置にぶつかる場合は、いったん本体を取り出してラックレールの固定位置を調整してください（ぶつかる装置の取り付け位置も調整する必要がある場合もあります）。

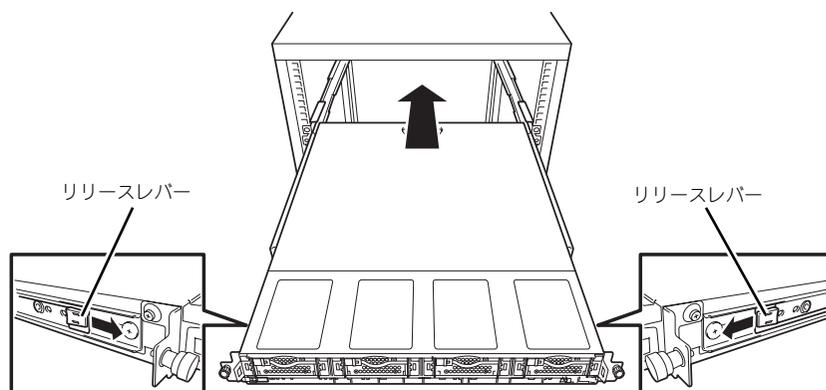


ヒント ご購入いただいた時期によって、リリースレバーの位置や形状が異なります。

(1) リリースレバーがインナーレールの後側にある場合

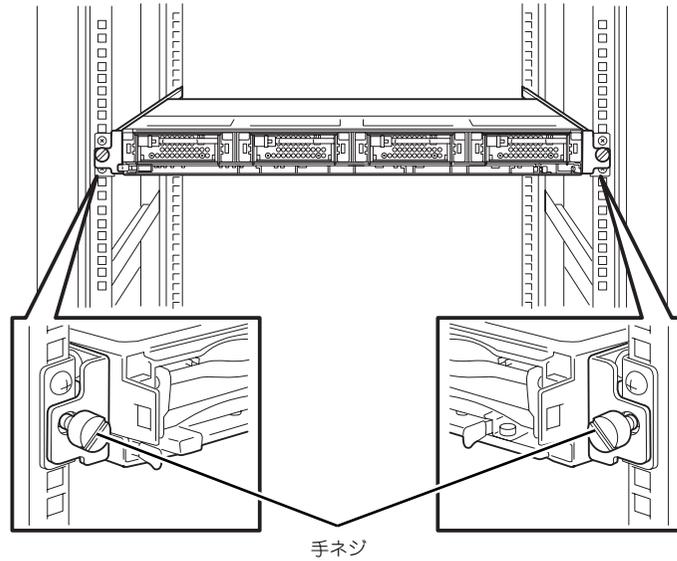


(2) リリースレバーがインナーレールの前側にある場合



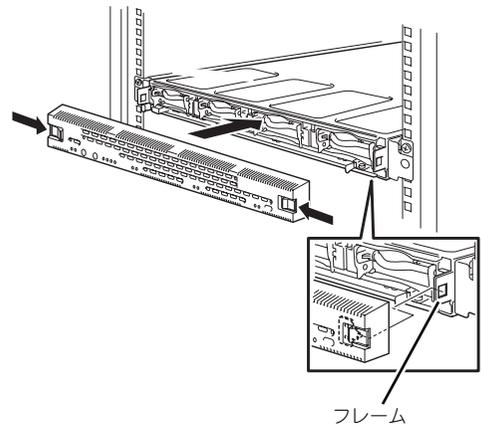
● 本体の固定

1. 本体をラックへ完全に押し込む。
2. 前面の左右にあるマウンティングギヤーの手ネジでラックに固定する。

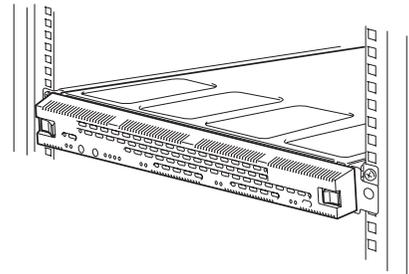


3. フロントベゼルを取り付ける。

フロントベゼルの両端のイジェクトレバーを内側へスライドし、本体のフレームに引っかけるようにしながら取り付けます。



以上で完了です。



取り外し手順

次の手順で本体をラックから取り外します。取り外しは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。

 **注意**



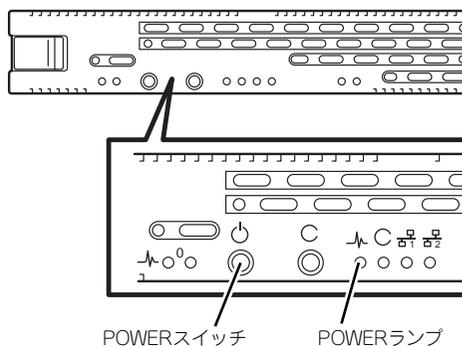
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指を挟まない
- ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない
- 落下注意
- 装置を引き出した状態にしない
- 複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない
- 動作中に装置をラックから引き出さない

1. 管理PCからリモートデスクトップでシャットダウンするか本体前面にあるPOWERスイッチを押して本体の電源をOFFにする。

電源をOFFにする手順については、17ページを参照してください。

POWERランプが消灯し、本体の電源がOFFになります。



2. 本体に接続しているすべてのケーブル、および電源コードを取り外す。

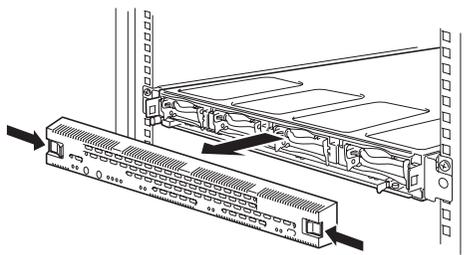


チェック

本体背面のケーブルや電源コードを取り外す前にUID/STATUSランプで取り外そうとしている装置であることを確認してください。

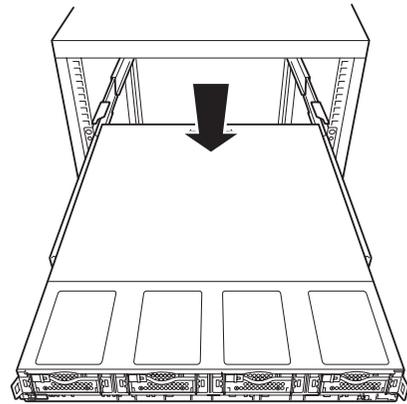
3. フロントベゼルを取り外す。

フロントベゼルの両端のイジェクターレバーを内側へスライドしてロックを外し、フロントベゼルを手前に引き、本体から取り外す。



4. 前面の左右にあるマウンティングギヤーの手ネジをゆるめて、本体をゆっくりと引き出す。

両側のラックレールのロックがかかるまで本体を引き出してください。



5. 本体側面にある左右のインナーレールのリリースレバーを押してロックを解除し、本体の左右底面をしっかりと持って、ラックから完全に引き出し、丈夫で平らな机の上に置く。



チェック

本体をラックからいっばいに引き出すと、安全のため一旦ロックがかかり、引き出した状態で固定されます。再度ラックへ押し込む場合または本体をラックから取り外す場合は、本体の左右両側面のインナーレール内にあるリリースレバーを押してロックを解除してから行ってください。



重要

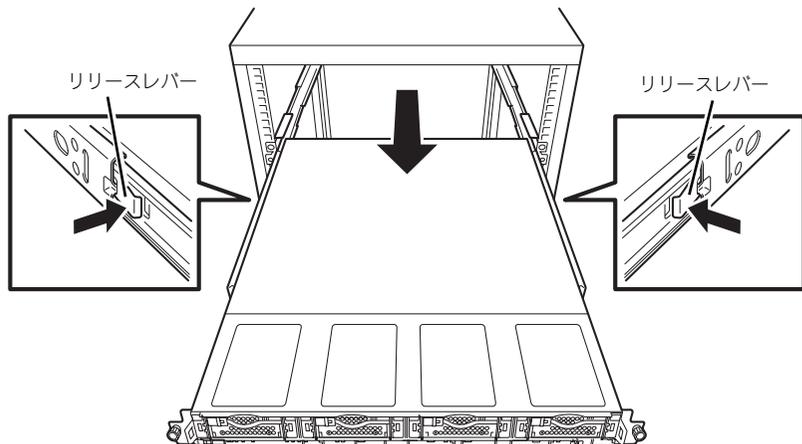
本体を引き出したまま放置しないでください。必ずラックから取り外してください。



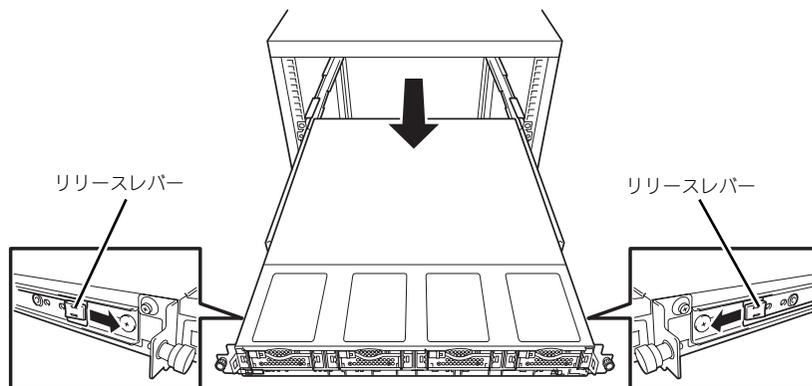
ヒント

ご購入いただいた時期によって、リリースレバーの位置や形状が異なります。

- (1) リリースレバーがインナーレールの後側にある場合



(2) リリースレバーがインナーレールの前側にある場合



ラックの機構部品も取り外す場合は、「取り付け手順」を参照して取り外してください。

接続について

本体をネットワークに接続します。

ネットワークケーブルを本体のLANポート1に接続してから添付の電源コードを本体に接続し、電源プラグをコンセントにつなげます。それ以外のコネクタには接続する必要はありません。

LANポート2やオプションのネットワークインタフェースカード（NIC）のLANポートへの接続は、この後に説明するシステムのセットアップの完了後に1ポート単位にケーブルを接続し、設定してください（設定順序は、LANポート2、続いてオプションのLANポートの小さい順です）。

警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- めれた手で電源プラグを持たない
- 電源プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない

注意



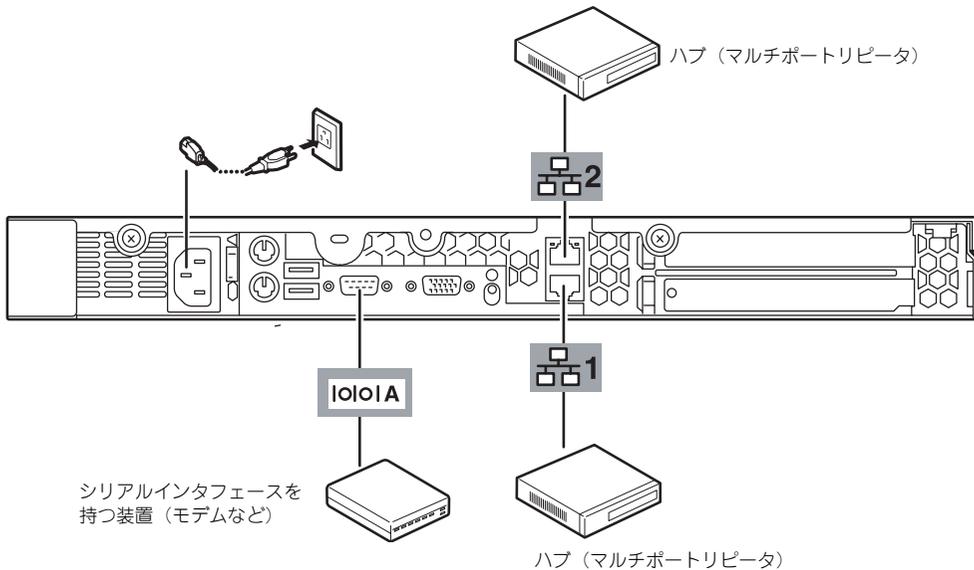
装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 指定以外のコンセントに差し込まない
- たこ足配線にしない
- 中途半端に差し込まない
- 指定以外の電源コードを使わない



重要

- 本体および接続する周辺機器の電源をOFFにしてから接続してください。ONの状態のまま接続すると誤動作や故障の原因となります。
- シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。
- 回線に接続する場合は、認定機関に申請済みのボードを使用してください。
- サードパーティの周辺機器およびインタフェースケーブルを接続する場合は、お買い求めの販売店でそれらの装置が本装置で使用できることをあらかじめ確認してください。サードパーティの装置の中には本装置で使用できないものがあります。
- PCIスロットに搭載したオプションのLANボードに接続したケーブルを抜くときは、コネクタのツメが手では押しにくくなっているため、マイナスドライバなどを使用してツメを押して抜いてください。その際に、マイナスドライバなどがLANポートやその他のポートを破損しないよう十分に注意してください。



- マウス、キーボード、ディスプレイ (VGA) ポートは保守の際に接続します。通常は接続しておく必要はありません。
- ラックに搭載している場合は、周辺機器を接続した後ケーブルがラックのドアや側面のガイドレールなどに当たらないようフォーミングしてください。
- 本装置のシリアルポートは管理PC接続用に初期設定されています。本装置のシリアルポートにモデムや無停電電源装置 (UPS) を接続して使用する場合は、ケーブルを接続する前に BIOS の「Remote Access Configuration」の設定変更が必要です。5章の「BIOS の設定と確認」を参照してください。



ネットワークに接続する前に次の点について確認してください。

- LAN のネットワーク設定
本装置に割り当てる IP アドレスやネットワーク環境について確認してください。
- ネットワーク機器
必要なルータやハブ、ケーブルが準備されていることを確認してください。
- LAN ポート 2 は、OS 上で設定した IP アドレス以外に BMC LAN の IP アドレスを持っており、ポートをシェアしています。BMC の LAN インターフェースはデフォルトで以下に設定されています。

IP アドレス : 192.168.0.1
サブネットマスク : 255.255.255.0

このため、接続される LAN 環境に上記設定の装置が接続されていると IP アドレスが重なってしまいます。上記 IP アドレスを避けた設定としていただくか、EXPRESSBUILDER に格納されている BMC IP コンフィグレーションツールを使用して BMC LAN の IP アドレスを変更してください。設定手順の詳細については 4 章の「BMC IP コンフィグレーションツール」を参照してください。

システムのセットアップ

システムのセットアップは専用の初期設定ツールを使います。初期設定ツールは「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMに格納されています。

セットアップの準備

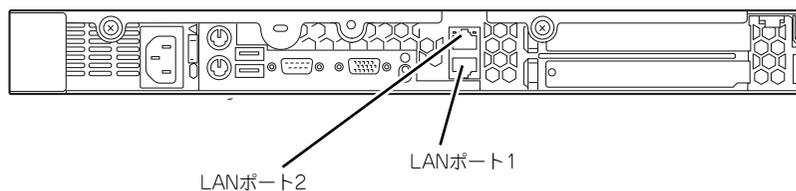
本装置を設定する前に、本体のLANポート1に割り当てる次の情報を準備してください。次の「電源のON」に示す図を参照して、LANポートの位置を確認してください。

- コンピュータ名
- 管理者パスワード
- IPアドレスとマスク値

電源のON

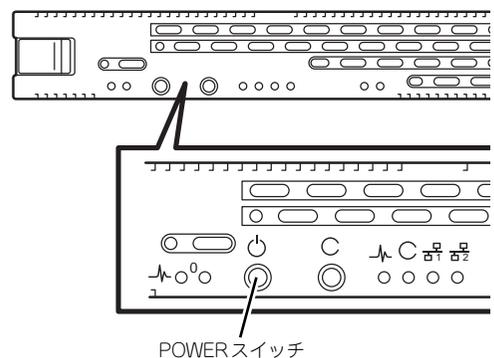
システムの電源をONにします。

1. 本体の電源コードがコンセントに接続されていること、および本体のLANポート1がネットワーク環境として使用するハブに接続されていることを確認する。



2. 本体前面のPOWERスイッチを押して本体の電源をONにする。

本体が起動を開始します。本装置の初回起動は、起動時のピープ音で確認します。ピープ音のパターン(ピープ音を2回長く4回短く)を4回繰り返したら、正常に起動したことになります。



初期設定

管理PC からリモートデスクトップ接続できるようにするために、本装置の初期設定を行います。初期設定ツールの実行は、本装置と同じネットワーク上にあるWindowsマシン (Windows 2000/XP/2003)と添付の「EXPRESSBUILDER(SE)」CD-ROMを使用します。



ヒント

詳細については、初期設定ツールのヘルプを参照してください。初期設定ツールを起動せずにヘルプを参照したい場合は、以下のファイルを開いてください。

「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMの¥NASAP¥iStorageNSsetup.chm

1. 任意のWindowsマシンのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE)」CD-ROMをセットする。

Autorun機能によりメニューが自動的に表示されます。表示されない場合は、CD-ROMドライブ内の「¥MC¥1ST.EXE」を実行してください。

2. [ソフトウェアのセットアップ] をクリックして、表示されたメニューから [初期設定ツール] をクリックする。

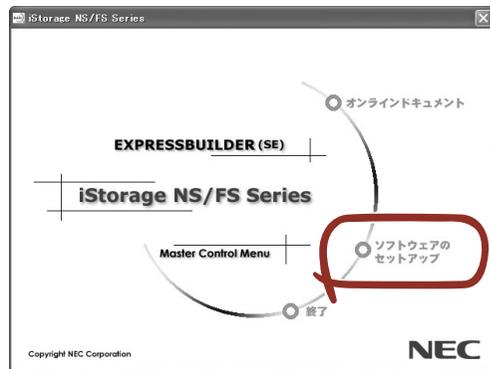
初期設定ツールが起動し、エンドユーザーライセンス契約(EULA)の確認画面が表示されます(初回のみ)。

3. EULAを確認の上、同意する場合は [はい] をクリックする。

自動発見ウィンドウが表示されません。

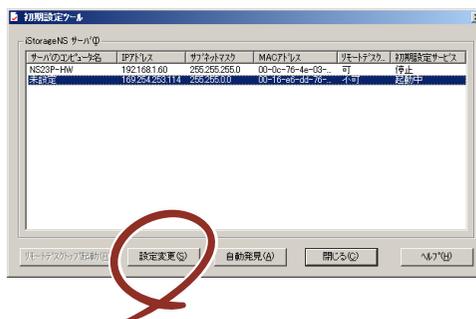
4. [開始] をクリックする。

iStorage NSの一覧が表示されます。



5. リモートデスクトップ起動の表示が「確認中」から「可」または「不可」に変わったら、設定したいiStorage NSを選択し、[設定変更] をクリックする。

設定変更画面が表示されます。



重要 DHCPサーバが存在する場合、リモートデスクトップ起動が「可」となり、リモートデスクトップが起動します。Administratorでログインし設定を変更してください。

6. [コンピュータ名] 欄にコンピュータ名を入力する。



チェック ネットワーク上に同一のコンピュータ名を持つマシンが存在すると、設定変更後の再起動ができなくなります。コンピュータ名が重複していないことを確認してください。

7. [IPアドレス] 欄にIPアドレス [サブネットマスク] 欄にサブネットマスクを入力する。



- IPアドレスの設定を間違えると、設定変更後の再起動やリモートデスクトップ接続ができない場合があります。IPアドレスに誤りがないことを確認してください。
- 設定するIPアドレス/サブネットマスクは、初期設定ツールを動作させているマシンと同一ネットワークになるように設定してください。

8. [適用] をクリックする。
9. 設定変更を確認するウィンドウが表示されたら、[OK] をクリックする。
サーバ設定の変更が始まり、サーバ設定状況の内容が順次更新されます。
10. 完了メッセージが表示されたら、[OK] をクリックする。

以上で、本装置の初期設定が完了し、リモートデスクトップ接続で管理できる状態になりました。

リモートデスクトップ接続での設定

リモートデスクトップ接続を行い、以下を参照して必要な設定を行います。



リモートデスクトップでの接続方法は、1章の「本装置への接続」(19ページ)参照してください。

1. リモートデスクトップを起動し、Administratorでログインする。
2. スタートメニューから[マイコンピュータ]を選択し、右クリックし、[プロパティ]を選択する。
3. [コンピュータ名]タブを選択する。



初期状態では、Workgroupというワークグループのメンバーに設定されています。

4. [変更]ボタンをクリックする。
5. ワークグループに参加させる場合は、「ワークグループ」を選択し、本装置を参加させるワークグループ名に変更する。

ドメインに参加させる場合は、「ドメイン」を選択し、ドメインコントローラに登録されている「ドメイン名」、「ユーザー名」および「パスワード」を設定します。

入力したドメイン名、ユーザー名が確認される（環境により10数分かかります）と再起動の画面が表示されます。

6. 再起動の確認画面で[OK]をクリックして再起動する。

再起動が完了すると、ドメインまたはワークグループへの参加が完了します。

その他の設定について

初期設定が完了しても、シャドウコピーなどNASの各種機能を使用するための詳細設定や、あらかじめインストールされている管理アプリケーションの固有のセットアップが必要です。管理者ガイドおよび4章を参照して、必要なセットアップを行ってください。

本装置にインストール済みのアプリケーションは次のとおりです。

- ESMPRO/ServerAgent
- Web-based Promise Array Manager
- エクスプレス通報サービス



重要

- ドメイン環境で、NFS (UNIX) 接続を利用する場合、ドメインコントローラにService for UNIXをインストールする必要があります。詳細については管理者ガイドを参照してください。
- iStorage NSソフトウェアを再インストールする場合は147ページを参照してください。

オプションソフトウェアの追加

本製品にはいくつかのオプションソフトウェアがあります。オプションソフトウェアは工場出荷時にはインストールされていませんので、ご使用前にインストールする必要があります。本製品をサポートするオプションソフトウェアについては、販売店などにご確認ください。

各オプションソフトウェアをインストールする場合は、以下の手順に従ってネットワーク経由でインストールを開始してください。

1. 管理PC（またはiStorage NS本体と同一ネットワーク上にあるPC）にて、CD-ROMドライブをネットワーク共有する。
2. オプションソフトウェアのCD-ROMを管理PCのCD-ROMドライブにセットする。
3. iStorage NS本体にてエクスプローラを起動し、管理PCでネットワーク共有したCD-ROMドライブに接続する。
4. CD-ROM内のオプションソフトウェアのセットアップ用プログラムを実行する。

以降のセットアップの手順については、各オプションソフトウェアの説明書に従ってください。



オプションソフトウェアをインストールする場合は、各ソフトウェアの必要システム情報を参照してください。